

フィールドワーク(地域における実践活動)

普天間めぐり

平敷 兼哉 (宜野湾市立博物館 館長)

【本日の案内コース】

普天満宮（出発地） → ①普天間でいご通り（ぎのわんヒルズ通り） → ②喜友名泉 → 昼食（ユニゾンカフェ） → ③すずらん通り → ④万年通り → ⑤局前通り → ⑥普天間市場通り → ⑦宜野湾市役所跡（サンフティーマ） → ⑧本町通り → ⑨十八番通り → ⑩平和祈念像原型アトリエ（外観） → ⑪普天間中央通り（国道 330 号） → ⑫普天間高等学校 → ⑬普天満宮

【1. 戦後復興の地、野嵩と普天間】－前史①

- ①戦時中、旧野嵩、現在の野嵩一区には野嵩収容所が設置され、戦後、故郷に戻れない他市町村の人びとと、北部の収容所や疎開から帰村した宜野湾村民であふれかえっていました。野嵩収容所に入りきれない人びとは、普天間地区（普天間高校裏側一帯）に居住しました。
- ②野嵩・普天間には、故郷に戻れない他市町村の人びと、宜野湾村民、軍作業などの職を求めてきた人びとであふれていました。特に現在の野嵩2区、3区、普天間1区、2区に人口が集中していました。
- ③村役所（1950<昭和 25>年建設→58<昭和 33>年普天間移転）も現在の野嵩3丁目内（野嵩二区内）にあり、付近には県中部土木事務所（現：県建設技術センター）がありました。
- ④1946（昭和 21）年に市町村制が復活。1951（昭和 26）年には普天間2区が設置されました。そこには、元からの宜野湾村民（特に旧集落に戻れない新城、安仁屋）と、他地域からの入籍者がいました。当時の行政区自体は、区域が主体ではなく、人が主体となっているので、区民が入り交じり、行政執行に支障を来たしました。そのため区域上の責任者がおらず、無籍者が増え、財政計画も難しく、無計画な家屋建設で都市計画

にも影響が出る状況でした。新行政区を設置することで、これらの問題を解消するために普天間2区を設置しました。内規でも世帯を構える者は、班長に入籍手続きをとることとし、区内居住者の把握につとめました。

【2. 普天間の街】－前史②

普天間の街は普天間中央通り（国道330号）を挟んで旧普天間地区（普天間高校側）と、新開地（サンフティーマ側）に分けられます。

新開地の都市計画は、市役所ではなく、都市計画委員会によって計画されました。

●普天間都市計画事業（4万5,000坪）

1953（昭和28）年1月に区長を中心に「普天間土地委員会」を結成し、解放運動を展開した結果、普天間の小字（こあざ）前原、前筋原、石川原が返還されました。同年9月の解放地地主総会で「普天間都市計画委員会」を設立し、行政当局でも対応できない区画整理事業を末端の行政区が地主の権利擁護と秩序ある開発をめざして事業を行いました。志村恵氏の都市計画基本構想「普天間解放地都市計画構想図面」を基にしたそうです。区民の総意で解放運動を起こし、署名運動、陳情を再三に要請した結果、勝ち取ったという経緯から「開放」より「解放」の文字が使われるようになったそうです。

●都市計画もでいご通り（県道30号線）には、映画館や銀行、外人向けの商社、洋服屋、質屋があり、軍用道路5号線（中央通り、現：国道330号）には、地元住民相手の商店街で食糧、衣料、理髪、本屋、雑貨などが建っていました。大通り沿いは、こういった店舗が並び、中央部にはバー、カフェのお店、後方台地には住宅地がありました。

●1950年代には、貸馬業が盛んになりましたが、米兵が関連する乗馬事故が相次ぎました。

●当時の宜野湾村では市昇格にむけて市名を公募し、普天間市、天満、宜普ノ宮、吉野などが出て、1962（昭和37）年4月に普天間市と吉野市に割れましたが、議会の三分の二の賛同が得られず、元通りの「宜野湾市」に決定しました（62年7月1日に市昇格を果たした）。

【3. 本日のコースについて】

① 普天間でいご通り(県道 81 号線 宜野湾北中城線、軍道 30 号、現:ぎのわんヒルズ通り)

1964(昭和 39)年5月、喜友名の照屋次郎さん(ジローベーカーリー社長)が沖縄一のデイゴ街道にし、将来は観光沖縄の名物にしたいということで、通り約 600mで、25m間隔で植付けました。費用は 5,500 ドル。最初は並松を再現しようと松を植えましたが、管理が難しくデイゴに代えたそうです。植付けには沖縄銀行の頭取や先輩、友人、喜友名の青年団も協力しました。

1956(昭和 31)年1月、でいご通りにはオリオン系映画館グランドパレスがオープンしました。

でいご通りは、2015(平成 27)年9月に「ぎのわんヒルズ通り」に名称を変更しました。

② 喜友名泉(チュンナーガー) 国指定有形文化財

湧き水に向かって左側の泉を「ウフガー」(イキガガー、ウマアミシガーとも言う)、右側を「カーグワー」(イナグガーとも言う)、合わせて「チュンナーガー」と言います。

◆ウフガー…正月の「若水(ワカミジ)」、赤ちゃんが生まれた時の「産水(ウブミジ)」、馬の水浴び

◆カーグワー…飲料水、洗濯、水浴び

この泉には、巧みな石造技術がみられます。ウフガーは布積みを基調とし、カーグワーは、布積みとあいかた積みが併用され、精巧に噛み合う石積みが施されています。

泉から喜友名の集落までは高低差が 25m程あり、約 100mを測る急勾配の石畳み道が続き、かつて水道のない時代には毎日の水汲みが日課という苦労話があります。泉は、カーグワーに安置している香炉(明治 22 年銘)や古老のお話から、明治 20 年代に新造または修造したと考えられています。

③ すすらん通り

1953(昭和 28)年に軍用地が解放され、外人相手のバーを中心に街づくりが始まりました。1958(昭和 33)年 10 月には通り会を結成して、通り名を募集し、185 人 370 点の応募の中からコザ市に住む中山文夫さんが入賞しました。すすらん通りは、北海道産の花、スズランから命名され、当時の通り会会長は、「すすらん通りがすすらんの花のように美しく繁栄することを祈りたい」とコメントしました。

④万年通り

普天間三区に位置し、本町通りから旧5号線を越えた通りで、三角食堂の右側の通りですが、名称由来は不明です。

⑤局前通り

普天間三区に位置し、本町通りから旧5号線（現：国道330号）を越えた通りで、三角食堂の左側の通りになります。当初は「新開通り」と呼ばれていましたが、通りに宜野湾郵便局（郵便局の新庁舎が1958<昭和33>年に野嵩から普天間へ移動）があったことから局前とも呼ばれるようになりました。

⑥公設市場通り（現：グリーンベル商店街）

公設市場は1961（昭和36）年に都市化を促進し、村経済の発展と村有地の効率的な利用として沖縄食糧株式会社跡に建設されました。1962（昭和37）年の市昇格に伴い、役所裏に「新都市の台所」と銘打っていました。

1963（昭和38）年9月に「公設市場通り」としてオープンし、「宜野湾市場通り会」を結成しました。1980年代には通り名が「グリーンベル商店街」へ変わりました。「グリーン」は平和をイメージし、「ベル」は鐘で、「平和の鐘を鳴らす」という意味で、商店街とお客様からの公募で決まりました。

⑦宜野湾市役所跡（現：サンフティーマ）

宜野湾市役所は1958（昭和33）年に野嵩から普天間へ移転し、1980（昭和55）年に現在地の野嵩へ移転しました。戦前は普天間国民学校、戦後は沖縄食糧株式会社中部支店（1950年設置→1954年コザへ移転）がありました。

⑧本町通り（元：沖映通り）

1948（昭和23）年の初め頃から通り周辺に雑貨類を販売する店が軒を並べました。その後、1950（昭和25）年に同区の東側台地にテント張りの露店劇場が建てられ、娯楽の殿堂として村民の心を癒しました。そこが後の「普天間沖映」になりました。劇場を中心とする沖映通り商店街が宜野湾市の心臓部として宜野湾村民だけでなく、中城や北中城、浦添方面からの買い物客で賑わいました。

1954（昭和29）年4月に通り会が結成され、後に「本町通り」と名称を変更しました。露店劇場が「普天間沖映」となり、その跡地に「スーパー緑屋」ができました。

1956～58（昭和31～33）年にかけて普天間通り会で側溝と道路補修工事を行い、普天間の“平和通り”と会員達は言っていました。

現在のユニオン普天間店の場所には、以前「スカラ座」があり、その後「福地ダクト製作所」になりました。

⑨十八番通り

かつて通りの角に「十八番」という飲み屋があり、そこからついた通り名で、後に店は無くなり、店名を活かした通り名だけが残ったそうです。伊佐千尋の作品『逆転』（1977）の舞台となった通り横丁でスナック街でした。

⑩平和祈念像原型アトリエ（外観）

沖縄戦の終焉の地、摩文仁に全世界の平和への祈りを込めて、平和の像を建立しようと、山田真山（1885～1978）が自宅で慰霊像原型制作のためアトリエを建設しました。慰霊像原型が漆喰で出来上がりましたが、建立間近にして真山画伯が没しました。その意志を継いで山田兼子郎、屋比久孟喜ほか 13 名がプロジェクトを組み、平和祈念像を建立しました。本像は高さ 12m、台座の霊室には各国から寄せられた霊石を安置しています。

※山田真山…東京美術学校（現東京芸術大学）で彫刻、日本画を学んだ。92 歳没。

⑪普天間中央通り（旧：軍用道路 5 号線、現：国道 330 号）

戦前は、嘉数から普天満宮まで宜野湾並松が通っていましたが、現在の国号 330 号が並松の道ではありません。商店街部分が並松跡になります。宜野湾並松は 1932（昭和 7）年に国の天然記念物の指定を受けましたが、沖縄戦時、日米両軍によって伐採されました。戦後は普天間と真栄原に一部残っていましたが、普天間では 1950～60 年代に都市計画や台風、松喰い虫の被害を受けて全滅しました。

⑫普天間高校

現在の普天間高校には、戦前、県立農事試験場、中頭教育会館、中頭地方事務所の県支所が置かれていました。高校と普天間小学校グラウンドは農事試験場の農場部分にあたり、戦後は普天間総合グラウンドとして中頭地区の運動会や市昇格の式典もここで行われていました。

戦時中は米 96 師団司令部、戦後は英字新聞社のデイリーオキナワン（～1948 年）の社屋として使用されていました。

普天間高校は元々、コザ高校分校として野嵩高校が野嵩区内に置かれていましたが、1948（昭和 23）年に現在地へ移動しました。1958（昭和 33）年に野嵩高校から現在の「普天間高等学校」に校名変更しました。

⑬普天満宮洞穴 市指定名勝

普天満宮の境内にある琉球石灰岩層に形成された全長 280mの洞穴です。洞内の広場で一番広い所が「奥宮」と呼ばれる拝所で、幅 15m、天井高 6mあります。

洞穴内の壁には細長い溝が確認でき、これは洞穴ノッチと呼ばれ、洞穴の中を流れる水で浸食されてできたもので、何らかの地殻変動の痕跡を物語っています。

また、数万年前に絶滅したシカ類（リュウキュウムカシキョン、リュウキュウジカ）の化石も発見されています。

【4. 普天間には、この他にも…】

普天間地域には 17 ほどの通り名があります。通りによっては通り会も結成され、それは現在も続いている会もあれば、通りの由来もわからなくなった所もあります。

今回は回りませんでした、その他の通り名を紹介します。

◆神宮大通り

1957（昭和 32）年 11 月に普天間署が発足（宜野湾、中城、北中城、浦添を管轄）。通り沿いには質屋がみられました。

◆いすのき通り

1973（昭和 48）年に都計街路が完成。イスノキは 1975（昭和 50）年に市木に指定されましたが、1996（平成 8）年にリュウキュウコクタンへと変わりました。

都計街路 2-1-1 として 1977（昭和 52）年に舗装・歩道整備が行われ、当時市の木であったイスノキを 160 本、クメジマツゲ 1,288 本を植え、街灯を設置しました。

◆東本町通り

本町通りから脇にそれ、野嵩三区に係る通りで、本町通りの東側に位置することからの名称と考えられます。

◆ニュー普天間通り(普天間東通り)

米軍通信隊ゲート向いにあり、外国人相手のために新しく生まれたバー街で、1955（昭和 30）年頃までは普天間唯一の繁華街として栄えました。しかし、風俗店街が目余り、軍からオフリミッツが下り、客足が遠のいたようです。

◆宮前通り

普天満宮前にある通りで、文字通りお宮の前の通りです。

◆天満通り

普天満宮向いにあり、宮前通りと普天間高校との間にある通りです。1956(昭和 31)

年に通り会が結成されました。

◆天満中通り

天満通りの延長線上に位置し、東本町通りから西側にそれた通りです。野嵩三区と普天間一区の境界にあたります。

◆ひふみ通り

普天間一区内、天満中通りと普天間小学校運動場との間にある通りですが、名称由来は不明です。

◆若竹通り

野嵩三区内でも天満中通り突き当りにある通りですが、名称由来は不明です。